

3 学習評価について

学習評価の機能

学習評価は、生徒の学習状況を把握し、結果の面から教育水準の維持向上を保障する機能を有するものと言える。

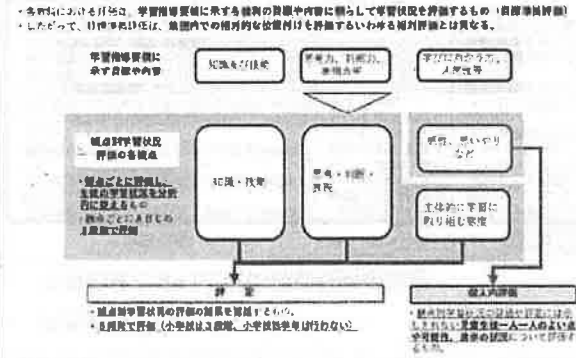
児童生徒の学習評価の在り方について(報告)【平成31年1月21日】



3 学習評価について

〔図1〕

各教科における評価の基本構造



教えたことを評価する

3 学習評価について

(1) 学習評価の基本的な考え方

H23 評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料より

① 指導と評価の一体化

- 学習評価の結果によって、その後の学習指導の改善を行うことが重要であるため、指導と評価は一緒に計画するもの。
- 学習評価は、生徒一人一人が意欲をもって水泳の学習に取り組み、自ら考えたり工夫したりしながら課題を解決していけるように支援するための手がかりを得るためのもの。
- 教師自身が指導の過程や指導方法、教材、学習活動、評価方法を振り返り、指導を改善するための手がかりを得るためのもの。

「努力を要する生徒」を、できるだけ早い段階で見付け、単元の中で「おおむね満足」の状況に引き上げることが重要

重要 指導の在り方について工夫改善

3 学習評価について

(1) 学習評価の基本的な考え方

H23 評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料より

② 評価規準の設定

評価規準

学習指導のねらいが、生徒の学習状況として実現されたとは、どのようなものになっているかを具体的に示したもの

知識・技能の評価

クロール(側) (中学校第3学年)
・ローリングに合わせてリラックスした動作
・顔を横に向ける大きさを調整した呼吸動作

目標に準拠した評価

主に観察による評価
泳げる距離やタイムではなく、動きの質的な評価を行うこと。

しかし、水泳では、こうした動きの高まりが、泳げる距離の伸びやタイムの短縮、ストローク数の減少などに反映されます。このような特性を考慮し、生徒に学習成果を実感させ、意欲を高める手段として、距離、時間、回数を学習活動場面に活用するなどの工夫も考えられます。

C→Bに引きあがる位でも。

質が評価

3 学習評価について

(1) 学習評価の基本的な考え方 (H23 評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料より)

③ 評価方法の選定
 「思考・判断・表現」
 ペーパーテストのみならず、論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い、作品の制作や表現等の多様な活動を取り入れたり、それらを集めたポートフォリオを活用したりするなど… (児童生徒の学習評価の在り方について より)

④ 学習評価の妥当性・信頼性
 評価結果 ← 適切な関連 → 評価しようとした目標 ← 評価方法 ← さそい → 資質・能力

⑤ 効果的・効率的な評価
 評価方法多く設定しすぎ → 評価に追われ指導できない → 無理のない評価計画 → 効果的・効率的な評価

3 学習評価について

(2) 移行期の取扱い 中学校 H30～R2
高等学校 R元～R3

[平成29年7月7日付け 29文科初第536号 文部科学事務次官通知]

5 移行期間中における学習評価の取扱い
 移行期間中における学習評価の取扱いの在り方については、移行期間に追加して指導する部分を含め、現行中学校学習指導要領の下での評価規準等に基づき、学習評価を行うこと。
 ※高等学校も同様の通知により周知

3 学習評価について

単元の目標を設定

中学校学習指導要領 高等学校学習指導要領

D 5 8
 水泳について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 (1) 次の事項について、泳法の向上や水中の動きや呼吸の習得が、泳者の個性や能力、泳者の発達や健康に、適切な指導や指導を受けること、泳者の発達や健康に、適切な指導や指導を受けること、泳者の発達や健康に、適切な指導や指導を受けること。
 ア クロールでは、手と足の動き、呼吸のバランスをとり続けること。
 イ 平泳ぎでは、手と足の動き、呼吸のバランスをとり続けること。
 ウ 背泳ぎでは、手と足の動き、呼吸のバランスをとり続けること。
 エ バタフライでは、手と足の動き、呼吸のバランスをとり続けること。
 (2) 泳法などの泳法の習得を促し、各泳法を習得した段階で泳法の習得を促すこと、泳法の習得を促すこと、泳法の習得を促すこと。
 (3) 泳法の習得が得意になると、泳法を得意とする、泳法を得意とする、泳法を得意とする。
 (4) 泳法の習得が得意になると、泳法を得意とする、泳法を得意とする、泳法を得意とする。
 (5) 泳法の習得が得意になると、泳法を得意とする、泳法を得意とする、泳法を得意とする。

学習指導要領では複数年のまとまりで目標が示されているので、生徒の実態等を踏まえて各学年の目標を設定する必要がある。

3 学習評価について

(3) 評価規準について

① 内容のまとまりごとの評価規準の設定

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
中学校3学年・高校1学年	技術の名称や行い方について学習した具体例を挙げている。 体力の高め方について、学習した具体例を挙げている。 運動観察の方法について、学習した具体例を挙げている。 クロールでは、手と足の動き、呼吸のバランスを戻し、安定したペースで長く泳いだり速く泳いだりすることができる。 平泳ぎでは、(略) できる。 背泳ぎでは、(略) できる。 バタフライでは、(略) できる。 複数の泳法で泳ぐこと、又はリレーをすることができている。	泳法などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。	水泳の学習に自主的に取り組もうとしている。 勝敗などを冷静に受け止め、ルールやゲームを大切にしようとしている。 自己の責任を果たそうとしている。 一人一人の違いに合った課題や挑戦を大切にしようとしている。 水泳の事故防止に関する心構えを遵守するなど健康・安全を確保している。

学習指導要領 本体の記載から

「おおむね満足できる状況」として評価規準を設定する。
 ・2年間で指導及び評価する内容を振り分ける。

3 学習評価について

(3) 評価規準について

② 学習活動に即した評価規準の設定例

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 水泳の各種目で用いられる技術の名称があり、それぞれの技術には、効率的に泳ぐためのポイントがあることについて理解したことを言ったり、書き出したりしている。 ② 泳法と関連させた補助運動や部分練習を繰り返ししたり、継続して行ったりすることで、結果として体力を高めることができることについて学習した具体例を挙げている。 ③ クロールでは、水面上の腕は、ローリングの動きに合わせてリラックスして前方へ動かすことができる。 ④ クロールでは、泳ぎの速さに応じて、顔を横に向ける大きさを調整して呼吸動作を行うことができる。	① 自己や仲間の特徴的な課題やその課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えている。 ② 健康や安全を確保するために、体語や環境に合った適切な練習方法等について振り返っている。 ③ 体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間とともに水泳を楽しむための活動の方法やその修正の仕方を見付けている。	① 練習などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとしている。 ② 一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとしている。 ③ 水泳の事故防止に関する心構えを遵守し、危険の予測をしながら回遊行動をとる健康・安全を確保している。

学習指導要領解説 例示を参考に

入学年次では、この項目に絞って指導する計画

- 内容のまとまりごとの評価基準を基に、指導する内容に合わせて、学習活動に即した評価規準を設定する。
- その際、細分化しすぎて項目が多くなり過ぎないように注意する。

4 指導計画の作成について

指導内容と評価規準の確認

評価規準の項目を生徒ができるようになるための具体的な指導内容を検討する。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 水泳の各種目で用いられる技術の名称があり、それぞれの技術には、効率的に泳ぐためのポイントがあることについて理解したことを言ったり、書き出したりしている。	① 自己や仲間の特徴的な課題やその課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えている。	① 練習などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとしている。

生徒が考えたり、活用したりできるようにするための指導内容（知識）や、場面の設定などを検討する。

4 指導計画の作成について

(3) 指導と評価の計画の作成

時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
時	0	① 水泳の各種目で用いられる技術の名称があり、それぞれの技術には、効率的に泳ぐためのポイントがあることについて理解したことを言ったり、書き出したりしている。 ② 泳法と関連させた補助運動や部分練習を繰り返ししたり、継続して行ったりすることで、結果として体力を高めることができることについて学習した具体例を挙げている。 ③ クロールでは、水面上の腕は、ローリングの動きに合わせてリラックスして前方へ動かすことができる。 ④ クロールでは、泳ぎの速さに応じて、顔を横に向ける大きさを調整して呼吸動作を行うことができる。										
時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12

指導や評価をいつ、どのように行いかの道筋を立てる

1 学習の流れを作成する

2 指導内容を配分する

単元のゴールイメージを明確にして立案

評価基本 | 時間1つ

4 指導計画の作成について

(3) 指導と評価の計画の作成

時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
時	0	① 水泳の各種目で用いられる技術の名称があり、それぞれの技術には、効率的に泳ぐためのポイントがあることについて理解したことを言ったり、書き出したりしている。 ② 泳法と関連させた補助運動や部分練習を繰り返ししたり、継続して行ったりすることで、結果として体力を高めることができることについて学習した具体例を挙げている。 ③ クロールでは、水面上の腕は、ローリングの動きに合わせてリラックスして前方へ動かすことができる。 ④ クロールでは、泳ぎの速さに応じて、顔を横に向ける大きさを調整して呼吸動作を行うことができる。										
時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12

3 指導内容に適した学習方法を考察する

主に教師が指導

対話による学習

次につなげる振り返り

ICT等の利用

など

4 指導画の作成について

(3) 指導と評価の計画の作成

時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
指導	導入 準備運動 基本動作の復習 新単元の導入 練習 まとめ	基本動作の復習 新単元の導入 練習 まとめ	基本動作の復習 新単元の導入 練習 まとめ	基本動作の復習 新単元の導入 練習 まとめ	基本動作の復習 新単元の導入 練習 まとめ	基本動作の復習 新単元の導入 練習 まとめ	基本動作の復習 新単元の導入 練習 まとめ	基本動作の復習 新単元の導入 練習 まとめ	基本動作の復習 新単元の導入 練習 まとめ	基本動作の復習 新単元の導入 練習 まとめ	基本動作の復習 新単元の導入 練習 まとめ	基本動作の復習 新単元の導入 練習 まとめ
評価												

4 評価の時期と方法を検討する。

- 「主体的に学習に取り組む態度」は、指導してから少し時間を置いて評価
- 「思考・判断・表現」は、指導した日に評価
- 一日に評価する観点は多くても2つ。観察による評価は1観点のみ。

学習指導案の作成

ねらい

本研修で身に付けた知識を実際の指導案に落とし込むことにより、
 具体の指導場面をイメージすることができる。

指導の具体をイメージすることにより、体育が苦手な生徒のための
 授業づくりの視点を整理する。



- 本研修で学んだことの振り返り、知識の定着
- 自身の授業づくり
- 伝達講習に向けたポイントの整理

学習指導案の作成に当たって

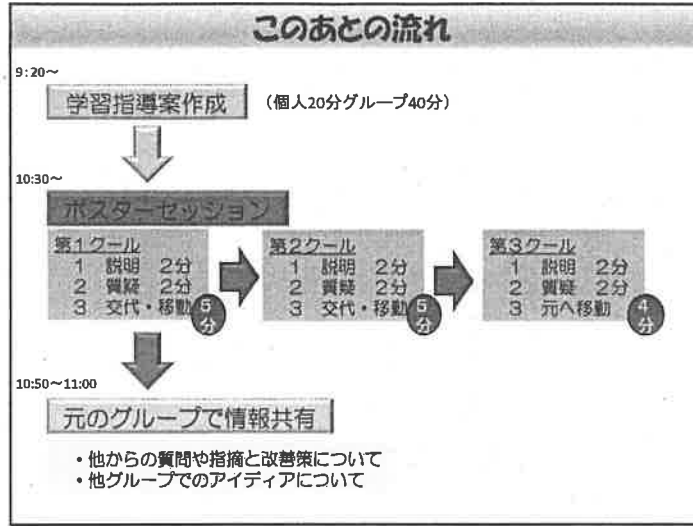
- 1 対象とする年次等は、割り振りのとおり
- 2 単元の位置は、どの時間でも構わない
- 3 本時のねらいは、一つの観点に絞る（学習指導要領とズレがないように）
- 4 体力や技能の程度、年齢や性別及び障害の有無等にかかわらずスポーツの多様な楽しみ方を社会で実践できるよう体育が苦手な児童生徒のための授業づくりの視点で工夫する
- 5 グループ分け等の配慮や個に応じた指導など、指導する際の留意事項等について盛り込む
- 6 運動の特性を味わわせる内容

学習指導案の作成に当たって

学年(高等学校入学年次) 単元の位置(時間中の 時間目)

本時のねらい

	学習内容・学習活動	教師の指導・支援及び指導上の留意点等	評価
導入	緊張をほぐしたり、楽しさが味わえる学習場面の設定		
展開	運動嫌いをなくしたり、楽しむことができる学習場面の設定	運動が苦手な子どもへの配慮や支援を記載	
まとめ			



研修講師となるために

研修のねらい

体力や技能の程度、年齢や性別及び障害の有無等にかかわらずスポーツの多様な楽しみ方を社会で実践できるよう体育が苦手な児童生徒のための授業づくりを通して、

運動やスポーツに親しむ資質・能力
 運動が健康に果たす役割、健康な生活を実践するための資質・能力を育てるなど、

調利のとれた子どもの体力向上を図るための指導法を習得し、教師の資質向上及び指導力の向上を図る。

留意事項

- 1 自分の言葉で話す。
- 2 研修のねらいと振り返りを設定する。
- 3 単純な実技講習・ネタ出しとしない。
- 4 授業改善につながるポイントを示すこと。
 - ・運動に親しむ
 - ・運動嫌いをなくす
 - ・運動が苦手な子供への配慮、支援のポイント
 - ・安全に配慮
 - ・健康の大切さを認識することができる
 - ・みんなが楽しむことができる

➔

受講者が
 ・授業改善につながる視点をもてる
 ・具体がイメージできる

伝達講習へ向けて

11:30~11:35

個人思考

20分

11:30~11:50

- ・考えた流れ
- ・時間配分
- ・伝えたいポイント

グループ協議

1 発表(1人1分)

- ・各都道府県の時間
- ・考えた流れ
- ・時間配分
- ・工夫した点
- ・伝えたいポイント
- ・計画で困惑した点

➔

2 協議

- ・自分や仲間の不足している点について
- ・アイデアやアドバイスの共有

振り返り

○ 伝達講習に向けたポイントの整理ができましたか？

- ・学習指導要領に基づく、授業実践・授業づくりのポイントの整理ができましたか？
- ・伝達講習へ向け見通しをもつことができましたか？
- ・他府県の受講者と情報の共有が図られましたか？